



応募総数過去最多の405点!

『小郡ジュニア歴史博士』

受賞者決定!



▲写真左から重松真歩さん、森田璃心さん、清武教育長、佐藤陽菜さん

第6回「小郡ジュニア歴史博士」が決定しました！今回は、市内の小・中学生から、過去最多となる405点の応募があり、審査員を悩ます良作ぞろいの中、大賞1点、優秀賞2点、佳作11点、奨励賞21点が選出され、表彰式が行われました。

小郡ジュニア歴史博士とは

小郡に住む子どもたちが、自分の住む地域の歴史を調べることで、ふるさとに愛着と誇りをもって欲しいという思いから、埋蔵文化財調査センターが主となり、平成25年に始まった取組です。市内の小・中学生に小郡の歴史や文化、民俗について研究してもらい、毎年大賞、優秀賞などを選出して表彰しています。

今年度は、出前講座や史跡バスツアーなど、本事業の啓発に取り組んだことも功を奏し、過去最多の応募が集まりました。今後はさらに、受検者数が徐々に伸びている「小郡ふるさと歴史検定」を始め、より幅広い世代が小郡の歴史を楽しく学べる企画を展開していく予定です。

今回も力作ぞろい！資料の丸写しではなく、実際に現地へ行ったり、聞き取りや見学、体験など、自分なりの調査に基づき、自らの言葉でまとめている作品が多く見受けられました。国際化が進む今だからこそ、今回の制作を通してふるさとの歴史を知り、誇りをもってもらえたらと思います。私も、皆さんがより深く研究したくなるような講座や、企画展など、さまざまな取組を工夫していきたいと思ひます。



埋蔵文化財調査センター
所長 林田一徳さん

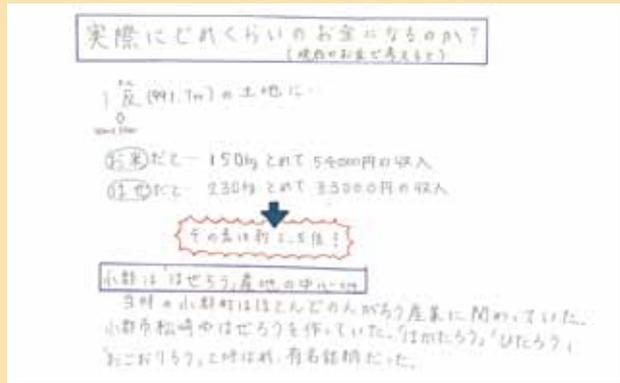
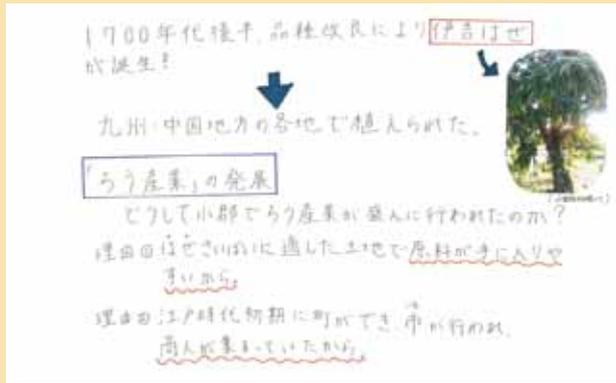


大賞

小郡を支えた伊吉はぜ 森田^{りこ}璃心さん(のぞみが丘小学校6年)

「校長先生から大賞を聞いた時はビックリしました。家族も喜び、焼肉でお祝いしてくれて嬉しかったです。もともと歴史は好きでしたが、昔のはぜは今のお金でどれくらいの価値があったのかを祖父にヒントをもらいながら調べたり、キャンドル作りに参加したり、わかっている過程は楽しかったです。みんなの前で考えを発表することが好きなので、将来はアナウンサーになることが夢です」(森田さん)

講評 審査員全員の意見が一致して大賞になりました。小郡の蠶産業と、その功労者である内山伊吉を初めて取り上げており、研究の動機→データを交えながら本論→結論という起承転結のはっきりした構成が良かったです。特に米の値段との比較や、はぜの実がいかに重要な産物であったか、久留米藩の主要品目を提示して数値などで根拠を示す部分は秀逸。「減ってしまったはぜの木を守りたい」との強い思いを感じることができました。



優秀賞

吹上地区 『吹上村囲遺跡』について

重松^{まほ}真歩さん(立石小学校6年)

「土器は弥生時代の中でも新旧があり、その特徴の違いを、資料で見たり、埋文センターの方に実際触らせてもらったりして調べました。作り終えて達成感があったのと同時に、授業でも歴史に興味が出てきました」(重松さん)

講評 家の隣りで発見された吹上村囲遺跡を取り上げ、埋文センターでの聞き取りや、自ら現地に足を運んで見たことを材料にまとめられています。写真や図が豊富で、配置や説明により読み手にとっても分かりやすい作品になっています。



優秀賞

小郡の災害と歴史について

佐藤^{はるな}陽菜さん(のぞみが丘小学校6年)

「西日本豪雨災害など、日本列島を襲う異常気象のニュースを見る中で、過去の災害に興味をもちました。特に昭和28年、38年の資料が少なく苦労しましたが、諦めなくて良かったです」(佐藤さん)

講評 災害を取り上げた作品は初めてで、独創性があり、かつ実際に身近に起きた出来事を取り上げているので、タイムリーなテーマでした。模造紙1枚には、災害が起こった時期と場所の両方が一目でわかるように配置され、工夫を感じます。

